

イエスのことば 第23回

2022年3月12日、聖書フォーラム、みやま集会。

この内容は、アーノルド・フルクテンバウム博士のメシアの生涯、第2巻によります。

今回のイエスのことばは、ルカの福音書7章47節です。

「ですから、わたしはあなたに言います。この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです。」(ルカ7章47節)

この学びでは、イエスの公生涯を起承転結、4つの部に分け、時間順にイエスのことばを見ています。

「起」、第一部は、受洗から、メシア宣言(紀元27年の春、過越しの祭り)を経て、宣教開始まで、です。

「承」、第二部は、メシアとしての権威を現わす時期です。しかし結果的に、指導者層の拒否を受けました。

「転」、第三部は、弟子訓練の時期です。

「結」、第四部は、エルサレム入城から十字架(紀元30年の春、過越しの祭り)、復活、昇天まで、です。

本日の学びに入る前に、これまでの文脈の確認をしておきましょう。

「承」の部、第二部において、イエスは12種類に及ぶ権威を現わし、大勢の群衆がイエスに従うようになりました。しかし、ユダヤ人の指導者層は、イエスを殺そうと図っていました。イエスは弟子たちの中から十二使徒を選び、次の段階に備えました。

そのような中、異邦人がイエスの権威を認めるといふ出来事が起きました。その異邦人とは、ローマ軍団の将校で百人隊の隊長でした。イエスは百人隊長の信仰を高く評価すると共に、将来、世界中の異邦人がアブラハム契約の祝福にあずかることを予告しました。

前々回から、いよいよ「承」の部の結末、メシア拒否に入りました。

拒否の前触れは、意外にも先駆者ヨハネから出ました。しかし、イエスはヨハネについて、メシアの先触れとしての使命を果たしたこと、責任はユダヤ人の指導者層の方にあると語りました。

そして、前回は、ガリラヤ地方の町々に対して、その不信仰をイエスが責めた出来事でした。今回は、ある一人の「つみびと」と呼ばれる女性がイエスをメシアと信じた出来事です。

本日のアウトラインは、大きく二つです。

第一に、ルカの福音書 7 章 36 節から 50 節です。パリサイびとシモンがイエスを食事に招いたときの出来事です。ある一人の「つみびと」と呼ばれる女性が、イエスに対する信仰を、ある行動で示しました。

第二は、ルカ 8 章 1 節から 3 節です。イエスは拒否されることを目前にしながら、懸命にイスラエルの人々に神の国の福音を伝えようとしました。ガリラヤ地方一帯を巡る三度目の宣教旅行です。この旅行では、多くの女性たちが、自分の財産をもって、いっこうに仕えました。

では、本日の内容に入りましょう。

第一、ルカの福音書 7 章 36 節から 50 節です。

パリサイびとシモンが、イエスを食事に招いたときの出来事です。

ある一人の「つみびと」と呼ばれる女性が、イエスに対する信仰を行動で示しました。

36 節、パリサイ人シモンがイエスを食事に招きました。このとき、彼はイエスに対して、どうも冷たい態度であったようです。44 節から 46 節には、イエスに対して、「足を洗う水を与えなかった」、「口づけしなかった」、「頭に塗るオリーブ油が提供されなかった」とあります。敬意を払うべき客人に対して、通常なすべきことがされなかったことがわかります。ここから推測されるのは、パリサイびとシモンがイエスを招いた理由です。彼は、イエスをメシアではないと判断する材料を得るために、イエスを招いたのです。

このようなパリサイびとシモンとは対照的に、ある一人の「つみびと」と呼ばれる女性が、イエスにしたことが、37 節から 38 節に記されています。つみびとは、その女性が遊女、売春婦であることの婉曲表現です。

39 節は、それを見たパリサイびとシモンの胸の内です。

40 節は、イエスはその思いを見抜いていたことを示しています。

41 節から 43 節は、たとえ話とパリサイびとシモンへの質問です。

44 節から 47 節は、イエスが、その女性の方を向き、パリサイびとシモンに言ったイエスのことばです。

48 節から 50 節は、その女性に対するイエスのことばと周囲のざわめきです。

それでは、次に本日の第二の内容、ルカ 8 章 1 節から 3 節です。

この宣教旅行では、多くの女性たちが自分の財産をもっていっこうに仕えていたと、記されています。

1 節、イエスは、「神の国を説き、福音をのべ伝えられた」とあります。イエスは、指導者たちの公然たる拒否を目前にして、なおも、神の国をイスラエルの人々に提供しようとしていたのです。12 人の使徒たちにとっては、使徒職に任命されてはじめての宣教旅行でした。

2 節から 3 節、この宣教旅行を経済的に支援していたのは、多くの女性たちでした。

まず、マグダラの女と呼ばれるマリア、ヘブル的に読むと【ミリアム】です。彼女について記す聖書の他の箇所は、マタイ 27 章 55 節から 56 節、マルコ 15 章 47 節、ルカ 24 章 10 節、ヨハネ 20 章 1 節から 18 節。

次に、ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、ヘブル的に読むと【ヨハナー】です。彼女について記す聖書の他の箇所は、ルカ 23 章 55 節、24 章 10 節です。

そして、スザンナ、ヘブル的に読むと【シヨシャナー】、そのほか多くの女たちが仕えたと記録されています。

以上が、今回の内容でした。

指導者層の拒否を目前にして、パリサイびとシモンがイエスを招いた食事の席で、ある一人の「つみびと」と呼ばれる女性が、イエスへの信仰を表したこと、そして多くの女性たちの経済的支援によって宣教旅行がなされた、ことを見たいです。

次回、第 24 回のイエスのことばは、いよいよ公然と指導者層がイエスをメシアではないと拒否した出来事です。